

曲 目 解 説 (Aプログラム)

平成24年8月25日(土) アムステルダム ミュージックヘボウ

< 管 絃 >

管絃は、^{とうがく}唐樂の器樂合奏です。古くは^{こまがく}高麗樂でも行われたようですが、何時の頃に行われなくなりました。唐樂には、^{いちこつちよう}越調、^{ひようじよう}平調、^{そうじよう}双調、^{おうしきちよう}黄鐘調、^{ばんしきちよう}盤渉調、^{たいしきちよう}太食調の六つの調子があります。今回は平調の曲を演奏します。

・ 平調音取

平調は^{とうがくりくちようし}唐樂六調子の一つで、平調(洋樂のE音に近い音)を基音とした^{りっせん}律旋の調子です。音取は演奏に先立って奏する短い曲で、音律を整えその調子の雰囲気を作ります。^{しょう}笙・^{ひちりき}箏・^{ふえ}笛の音頭と^{あんどう}鞀鼓そして^{がっこ}主琵琶・^{おもびわ}主箏が奏します。

・ 催馬楽 更衣

催馬楽は、平安時代(794年～1192年)の初めに大陸系の音楽の影響を受けて作られた歌謡で、唐樂器等の伴奏で歌われる民謡を歌詞とする声楽です。天皇の^{ぎょゆう}御遊(宮中で催された管絃の遊び)等で演奏されました。鎌倉時代(1192年～1333年)以降に衰微して一旦は絶えてしまいましたが、江戸時代(1603年～1868年)以降に少しずつ再興されました。

「更衣」は、最も有名な曲です。もとは民謡から始まり、後に貴族の娯楽音楽になって、芸術的に高められました。特に外来の管絃合奏を伴奏とするようになり、平安時代には盛んに演奏されました。

(歌詞)

更衣せんや	シャ ^{きんだち} 公達
我が衣 ^{きぬ} は野原	篠原
萩 ^{はなす} の花摺りや	シャ ^{きんだち} 公達や

全体として、のびのびした優雅な感じを与える声楽曲です。

句頭^{くとう}の「更衣」までを主唱者が^{しやくひようし}笏拍子を打って独唱し、^{つけどころ}付所の「せんや」から歌方の全員が笙、箏、龍笛、琵琶及び箏の伴奏で斉唱します。

・ 越 殿 楽

この曲は、漢の文帝(^{ぶんてい}在位前180年～前157年)が作ったとする説と日本で作られた曲であるとする説とがあり、はっきりしたことはわかりません。

同名で、^{ひようじよう}平調、^{おうしきちよう}黄鐘調及び^{ばんしきちよう}盤渉調の三つがありますが、なかでも平調の越殿楽は

民謡の黒田節の原曲とも云われ、その簡潔、優雅な旋律と端正な形式で知られています。

・雞 徳

この曲の由来については、^{にわとり}雞が有するという五徳（文，武，勇，仁，信）を雅楽の音階である五音（^{きゅう}宮，^{しょう}商，^{かく}角，^ち微，^う羽）に当てはめて作った曲であるという説と、いつの時代か漢の南方にあった鶏頭国に戦勝した時にこれを祝って作ったという説がありますが、詳しいことはわかりません。

古くは、正月7日の白馬の節会（平安時代の宮中行事で、左右の馬寮からから白馬を庭上に引出して天覧の後、群臣に宴を賜った儀式）に奏されました。「雞」は「慶」に通じるとしておめでたい曲とされています。

< 舞 楽 >

大陸系の「舞楽」は左方の舞（中国系）と右方の舞（朝鮮系）に大別されます。

今回は左方の「^{しゅんでいか}春庭花」と右方の「^{な そり}納曽利」と「^{ばいる}陪臚」を演奏します。

・^{しゅんでいか}春庭花

唐の玄宗皇帝（在位 712 年～756 年）が春に花の咲くのが遅いことを憂い、桜上で一曲奏すると庭に百花が咲き乱れたので、この曲を「春庭花」と云うようになったとの伝えがあります。

桓武天皇（在位 781 年～806 年）の御代に遣唐舞生の^{くれのまくら}久礼真蔵が伝えたとも、また、一説には和邇部^{わにべのおおたまろ}太田麿が作ったとも云われています。

この曲は一帖と二帖に分かれ、一帖で舞う時は「^{しゅんでいらく}春庭楽」と呼び、二帖とも舞う時は「春庭花」と呼ばれています。

左方の四人舞で、舞人は^{ばんえしやうぞく}蛮絵装束の右肩を^ぬ袒ぎ、^{けんえい}卷纓の冠に^{かざし}挿頭花を付け、太刀を^は佩き舞います。

後半、舞いながら舞台を回る姿は、あたかも花が開いたり閉じたりする様を思わせて誠に優雅な舞です。

・^{な そり}納曽利

高麗から伝わった舞曲ですが、由来などは不明です。「^{そうりゆうまい}双竜舞」といわれ、雌雄の

竜が楽しげに遊ぶ姿をかたどったものといわれ、昔は相撲など勝負事のおりに、勝者を讃えて奏したといわれています。

右方の二人舞で、舞人は襦袢装束を着け、面を被り、右手に桴を持って、破および急を舞います。

・陪臚

一名を「陪臚破陣楽」といいます。天竺の楽で、班朗徳が作ったと云われています。

大国の法に「陣の日にこの曲を七返の時に舍毛音があれば我が陣が勝つという。」とあります。楽は婆羅門僧正、林邑（ベトナム辺り）の僧仏哲が我が国に伝え、舞は聖徳太子が守屋の軍と対した時に、舍毛音があって勝ったのを模して作ったと伝えられています。また、奈良の唐招提寺の陪臚会に奏したと云われています。

破は平調の夜多良拍子（2分の2と2分の3の混合拍子）で、曲の中程で太刀を抜いて舞います。急は壹越調の新羅陵王急を奏し、曲の途中で鉾と楯を持って舞いながら退出します。

右方の四人舞で、襦袢装束に末額の冠を被り、太刀を佩き、鉾と楯を持って舞います。

管 絃 配 役

平調音取、催馬楽 更衣、越殿楽、雞徳

笙	大窪貞夫	小原完基	豊 靖秋
箏 箏	東儀季祥	山田文彦	久恒壮太郎
笛	大窪康夫	植原宏樹	小山貴紀
琵琶	松井北斗	豊 剛秋	
箏	若井 聡	平川幸宗	
羯 鼓	池邊五郎		
太 鼓	上 研司		
鉦 鼓	保志瑞士		

舞 樂 配 役

春庭花，納曽利，陪臚

舞 人

左方

春庭花

大窪永夫

岩波孝昌

増山誠一

四條丞慈

右方

納曽利

陪 臚

池邊光彦

多 忠輝

大窪貞夫

若井 聡

久恒壮太郎

保志瑞士

管 方

笙

箏 箎

笛

豊 英秋

池邊五郎

上 研司

松井北斗

東儀季祥

大窪康夫

豊 剛秋

山田文彦

植原宏樹

小原完基

平川幸宗

小山貴紀

鞆鼓・三ノ鼓

太 鼓

鉦 鼓

安齋省吾

東儀博昭

豊 靖秋